

【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について】

1. 現状の評価

現状、当社のPBRは1倍を割れている状況が続いております。

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
PBR	1.2	0.9	1.0	1.0	0.9	0.9	0.6	0.7	0.6	0.7
ROE	9.0	8.2	9.2	8.8	7.4	4.0	5.6	5.9	4.8	-3.0

※数値は各年度の期末日時点

これはセメント需要の減少や足許のエネルギー価格の高騰や為替の円安による収益環境の悪化によりROEが低い水準であること、また脱炭素化が進展する中で株式市場におけるセメントセクターへの目線が厳しくなっている状況が株価に影響していることも要因の1つであると推察しております。

この状況を改善するには、事業収益を改善すると共に、中長期的な収益の安定性や成長性に対して株式市場から評価を得る必要があると考えております。その為の施策の1つとして、当社グループの“2035年のありたい姿”を示した中長期ビジョンである『SOC Vision 2035』を策定いたしました。

2035年のありたい姿

目指す姿：存在感のある会社

- ① 徹底した差別化・独自スタイルによるチャレンジャーとしての存在感
- ② 時代の要請に応えられる環境解決企業※
- ③ 脱石炭への挑戦

※SOCの環境解決企業とは：

- ✓ 循環型社会・脱炭素社会実現に向けて、環境課題に対する解決策（製品、ソリューション）を提供する企業

2035年目標数値

売上高	4,000 億円
営業利益	400 億円以上
ROE	10% 以上
ROIC	6.5% 以上

事業ポートフォリオ変革

セメント事業	50%
セメント事業以外	50%

2035年の数値目標として売上高4,000億円、営業利益400億円以上、ROE10%以上、ROIC6.5%以上を目指してまいります。その為には、セメント事業以外の事業分野、特に成長が期待できる新材料事業等の拡大、脱炭素社会の要請に応えられる新規事業の創出により、セメント事業とそれらが並び立つ事業ポートフォリオに変えていく必要があると考えております。

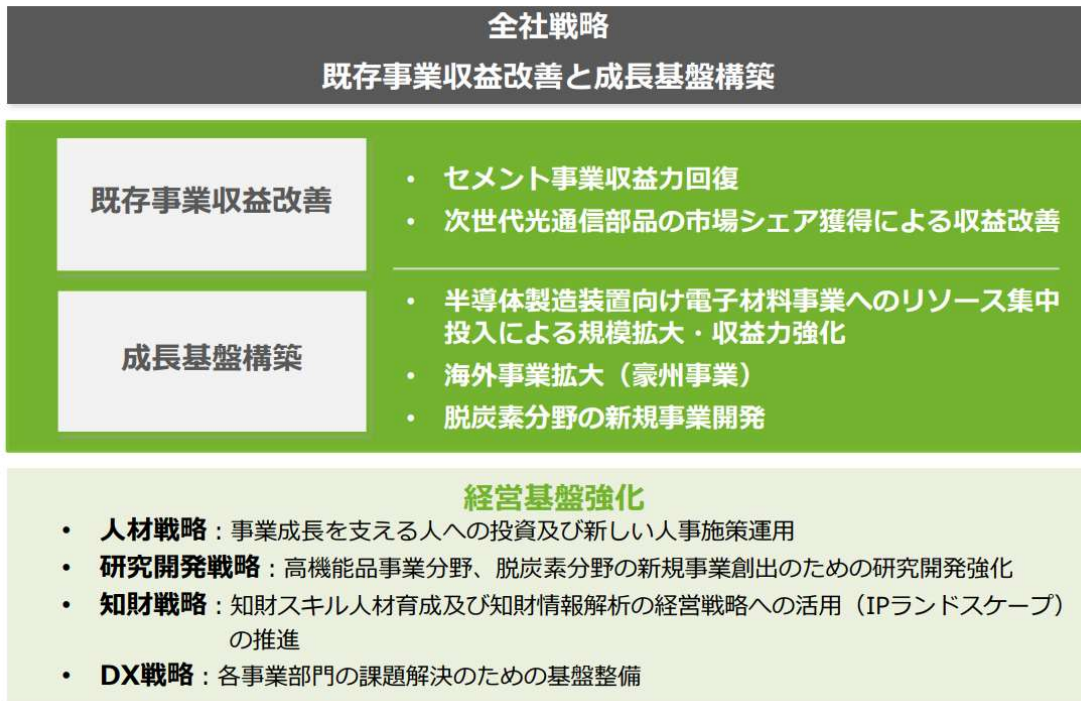
2. 取組方針

『SOC Vision 2035』を踏まえ、2023年度から2025年までに取り組むべき具体策を中期経営計画として策定いたしました。本中期経営計画の施策を確実に実施し、利益の最大化と資本の最適化を徹底することによりROEの向上を図ると共に、株主との積極的な対話やESGを含む情報の適時・適切な開示を通して企業価値の向上、PBRの改善に努めてまいります。

(1) 2023-25年度 中期経営計画（一部抜粋）

《全社戦略》

本中期経営計画の全社戦略として「既存事業収益改善」と「成長基盤構築」を推進してまいります。



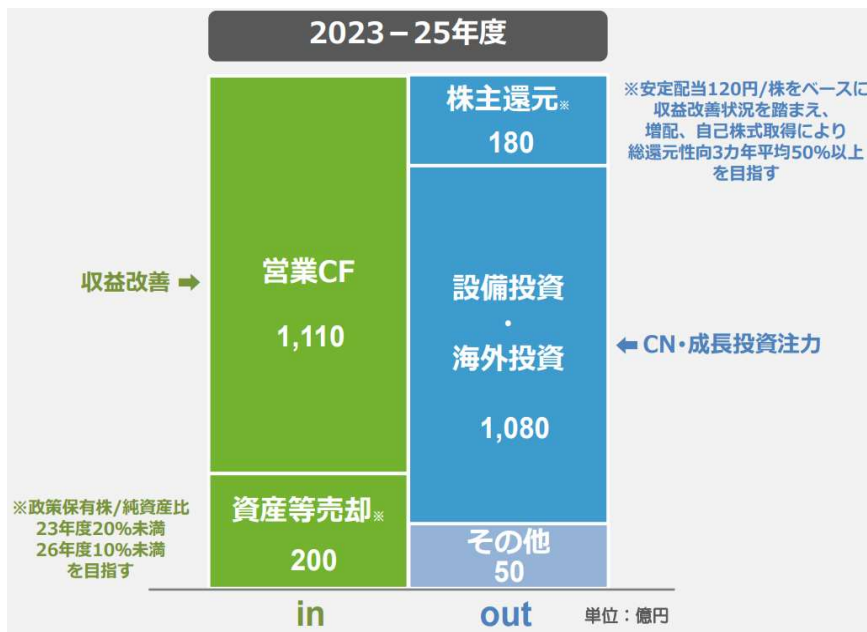
《2025年度収益目標・経営指標》



当社はこれまで資本効率の指標としてROEを採用しておりましたが、本中期経営計画よりROEと併せてROICを採用いたしました。

利益最大化・資本最適化を徹底し、2025年度でROE8.0%以上、ROIC5.0%以上の達成を目指してまいります。

《キャピタルアロケーション》



収益改善による営業キャッシュ・フローと政策保有株式の売却で得るキャッシュを原資として、投資と株主還元をバランス良く実施してまいります。

《投資計画》

石炭使用量削減によるCO₂排出削減、代替原料・熱エネルギー拡大の為のリサイクル受入増を目的としたCN分野及び新材料事業や海外事業を始めとした成長分野への投資を積極的に行ってまいります。



各事業における戦略やESG（非財務）目標等は中期経営計画及び統合報告書に記載しております。当社HPのIRページよりご確認ください。

- ・ SOC Vision 2035 及び中期経営計画
[chukikeiei_2305.pdf \(soc.co.jp\)](#)
- ・ 統合報告書
[soc_InR_2023.pdf](#)

(2) 株主・投資家との対話の実施状況等

当社は株主をはじめとする投資家やアナリストへの、迅速かつ公平な情報発信と対話を進めることで、市場との情報の非対称性を縮小し、企業価値向上を目指します。

2022年度に当社がおこなった、株主・投資家との対話の状況は、次のとおりです。

①主な対応者

- ・ 決算説明会：社長、企画部管理部担当役員、IR担当部門
- ・ 個別の対話：社長、企画部管理部担当役員、IR担当部門

②対話を行った株主・投資家の概要

国内外の機関投資家と105回、のべ約76社との対話を実施しました。

		回数	のべ社数
決算説明会	役員	2回	27社
個別の対話	役員	7回	3社
	その他	96回	46社
合計		105回	76社

③対話における主なテーマ・関心事項

セメント販売価格の値上げの進捗状況、使用する石炭の価格動向、国内セメント需要の動向、静電チャック事業の動向、株主還元の考え方等

④対話における意見の経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況

株主・投資家との対話で把握した意見は、四半期毎に取締役会へ報告し、改善すべき事項の検討、経営計画・戦略等の策定に役立てています。

以上